

音声言語情報処理技術デベロッパーズフォーラムの 開催にあたって

服部 浩明

NEC 共通基盤ソフトウェア研究所

あらまし 2005年に「音声認識技術の実用化」と題したパネルディスカッションから始まった当フォーラムも今年で3年目を迎える。昨年度は招待講演2件、一般講演1件、パネル5件の発表があり、議論の時間が足りなくなるほどの盛り上がりを見せた。今年は、招待講演2件、パネル4件とし、より活発な実用化に向けての議論が行われることを願う。

キーワード 音声認識 音声合成 音声対話 開発

A Foreword for the 3rd Spoken Language Processing Developer' s Forum Hiroaki HATTORI Common Platform Software Research Laboratories, NEC

Abstract This is the 3rd time of the Spoken Language Processing Developer' s Forum (SLP Developer' s Forum), which first held at 2005 with the panel discussion titled "Development of Speech Recognition Technology". This time we have two invited speeches and four panels and expect more active discussions than last year.

Keywords: Speech recognition, speech synthesis, speech dialogue, development

1. はじめに

音声は人間にもっとも自然なインターフェイスと期待され、これまで数多くの研究がなされ、様々な製品に搭載されてきた。しかしながら、IVR やカーナビ、携帯電話等での実用化がされてきているものの、期待されるような広く一般的に使われるインターフェイスとしての位置付けには至っていない。当フォーラムはこのような状況を打破するため、大学、研究機関、メーカーの多様な立場から、音声言語情報処理技術を広く実用化し、受け入れられる市場を創出するための問題点と解決策について忌憚無く議論を交わす場として企画され、2005年に5件のパネルディスカッションとして開催された。

パネルディスカッションでは議論を活発にするためディスカッサントをお願いし、多様な立場から議論を盛り上げていただいた。この形式は昨年度も取り入れられ、熱い議論が交わされ議論時間が足りなくなるほどの盛り上がりを見せた。今年度は少し件数を絞り2件の招待講演と4件のパネルディスカッションを予定し、昨年度以上の活発な議論を期待している。

2. 招待講演

1件目の招待講演は木村晋太氏(アニモ)に「音声技術の社会化」と題して講演いただく。アニモは1994年に「音・音声」をキーテクノロジーとしたマルチメディア・ソフト、サービス及びソリューションを開発、販売するベンチャー会社とし

て創立された。それ以来13年に亘って「音・音声」技術に関するさまざまなソリューション、製品を開発、世に送り出し今に至る。ここでは、(1)音声本来の機能を知ること、(2)最新IT技術への対応、(3)顧客の新しい価値観の理解の3つの観点でのアニモにおける取り組みについて紹介いただく。2件目の招待講演は寺西博人氏(NECソフトウェア北海道)に「音声認識ソリューションの開発」と題して講演いただく。NECソフトウェア北海道は1980年に設立され、ソリューション開発、ソフトウェア開発、パッケージプロダクト開発を3本の柱としている。NECソフトウェア北海道では、自社ソフトウェアとして議事録作成支援ソフト「VoiceGraphy」を企画、製品化しており、その経験をもとに音声認識ソリューションを実現していく上での課題について語っていただく。

3. パネルディスカッション

4件のパネルディスカッションではディスカッサントの質問を皮切りに、広く音声技術実用化にあたっての課題、対策について議論を盛り上げて行きたい。

一件目のパネルは早稲田大学の小林哲則教授より「ProxyAgent:音声認識システム機能拡張のための新たなコンポーネント」と題して、音声認識システムの実用化にあたって音声対話システムに対して求められる様々な周辺機能の拡張要求を、音声認識エンジンやアプリケーションに対して非依存で実現する枠組みについて述べていただく。ディスカッサントにはこれまで様々な音声対話システムの構築を研究されてきた京都工芸繊維大学の荒木雅弘准教授をお願いした。対話システムに求められる機能からその実装まで幅広い視点での議論が交わされるものと期待している。

2件目のパネルは旭化成の庄境誠氏に「自動車運転行動中発話の分析」と題し、自動車運転中発

話コーパスに関して、性能劣化要因を分析するための物理量計測の結果について、特に認識性能の低い話者に注目して、物理量と認識性能との相関を分析した結果について紹介いただく。ディスカッサントには自動車運転中の音声対話や音声認識等の研究に注力されている名古屋大学の武田一哉教授をお願いした。自動車内での音声認識の課題を熟知した二人による熱い議論が交わされることを期待している。

3件目は三菱電機の石川泰による「UI設計とユーザビリティ～音声インターフェイスの課題～」である。音声認識の実用化にむけて、音声インターフェイス設計とユーザビリティの問題を、GUIと比較して論じ、今後の課題について述べていただく。ディスカッサントはマルチメディアを介した対話システムの構築を目標に、様々な基礎技術・応用技術の開発に取り組まれている豊橋技術科学大学の新田恒雄教授をお願いした。使いやすいインターフェイスのあるべき姿についてご意見いただけるものと期待している。

最後のパネルはNECの佐藤幹氏による「小型音声対話モジュールの開発」である。新規に音声対話システムを構築するメーカーの取り組みを容易とするため開発した耐雑音音声対話機能を小型・低消費電力・低コストで実現した組込用音声対話モジュールの紹介をいただく。ディスカッサントはこれまで様々な組み込みシステムを開発されてきた東北工業大学の畑岡信夫教授に組み込み用ビジネスでの経験をもとをお願いした。有益な議論が交わされるものと期待している。

4. おわりに

音声情報処理技術が広く認知され利用されるまでにはまだ多くの壁を乗り越えなければならない。本フォーラムがその壁を乗り越えるための一助となることを願う。